

盛岡ふしぎ発見！ 本で調べて、ほうこく書を書こう

中心学習材 「本で調べて、ほうこくしよう」 「自分の言葉でまとめる」(光村図書3年下)

〈育てたい主となる能力〉

◎関心のあることなどから書くことを決め、相手や目的に応じて、書く上で必要な事柄を調べること。(書ア)

〈単元を貫く言語活動〉

◎盛岡の不思議について、本や資料で調べて報告書を書く。

1 子どもと単元について

子どもたちは、3年生の「書くこと」の学習「不思議な記号を調べて、報告する文章を書こう」の学習で、身の回りの記号について実際に見たり聞いたりする《実証研究》の形で調べ、報告する文章に書き、2年生へ向けた「記号ブック」を作る学習を行った。また、その活用として、社会科「もっと町たんけん」の学習では、詳しく調べたい学区の施設にインタビューに行き、調べた結果を報告する文章に書きまとめ、壁新聞形式で家の人たちに知らせる学習も行った。これらの学習を通して、子どもたちは、「調べたきっかけ・調べ方・調べてわかったこと・感想」という報告する文章の基本様式を身に付け、目的意識や相手意識を大切にしながら書くことができるようになっていく。

中心学習材「本で調べて、ほうこくしよう」は、調査報告書のうち、《文献研究》の報告書を書く基本的な力を付けることができる構成となっている。はじめに、自分の「問い」を発掘し、その「問い」に答えてくれそうな本を探す。ここで、百科事典や図鑑の検索の仕方を学習する。次に、《ほうこくの型》を参考に構成を考え、最後に、引用する場合の注意点や表現方法を学び、横書きの報告書にまとめていく。本単元により、調査報告書の様式が定着できるとともに、「文献調査をして報告書を書く」という、他教科でも活用できる言語能力が身に付くものとする。

指導に当たっては、次の三つを大切にす。一つ目は、「盛岡の不思議を調べて、友達や『もりおか歴史文化館』の来館者に知らせる」という相手意識・目的意識を常に大切にすることである。社会科や総合的な学習で盛岡の自然や産業、先人等を学んでいる子どもたちは、「盛岡の不思議」を調べることにより、「盛岡らしさ」や「盛岡のよさ」を再発見することであろう。その感動が、単元を貫く意欲となり、分かりやすく丁寧な記述に結び付くと考える。二つ目は、初めての文献研究であることから、文献調査の方法を楽しみながら確実に身に付けられるようにすることである。そのために、百科事典・図鑑・科学読み物などの違いを知り、その中から調べるために適切な本を選び(選書)、適切な箇所を探して読む(摘読)という資料調査の時間を十分にとるようにしたい。また、盛岡について調べることから、情報誌やガイドブック・パンフレットなどの資料も使い、全員が、自分の「問い」に対する「答え」を見付けられるように支援するとともに、多様な情報資料に気付かせたい。三つ目は、横書きの記述の仕方と引用の仕方を正しく身に付けられるようにすることである。そのために、取材メモと実際に使用した文献、更に引用と取材メモを自分の言葉でまとめている報告書のモデルを使い、子どもたちが記述する際に、拠り所とできるようにしたい。

2 単元の指導目標

- ◎調べる事柄を決め、進んで本を探して調べようとする。【関心・意欲・態度】
- ◎不思議に思う事柄から調べたいことを決め、報告書に必要な事柄について本で調べることができる。【書くこと ア】
- ◎書こうとする中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くことができる。【書くこと ウ】
- ◎問いを解決するために必要な本や文章を読み、文章などを引用したり要約したりすることができる。【読むこと エ】
- ◎報告書を書くために、必要な文字や語句について辞書を利用して調べる方法を理解し、調べる習慣を付けることができる。【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ(カ)】

3 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
◎盛岡の不思議について、進んで本を探して調べ、報告書に書き表そうとしている。	◎盛岡の不思議について調べたいことを決め、必要な事柄について本を読んで調べている。 ◎調べた事柄の中で、自分の問いに対する答えとして最も適した事柄を選び、引用したり自分の言葉でまとめたりして報告書を書いている。	◎盛岡について不思議に思う事柄を解決するために、必要な本や文章を選んで読み、文章などを引用したり要約したりしている。	◎報告書を書くために必要な文字や語句について辞書を利用して調べており、調べる習慣が付いている。

4 学習指導計画 (全 16 時間)

【主な段階】

【主な学習活動】

【主な活用】

第1次
単元のねらいを知り、学習の見通しをもつ。
(2時間)

- ① 学習や生活の中で感じた盛岡にかかわる不思議について話し合い、学習のゴールを設定する。
 - ② 「本で調べて、ほうこくしよう」を読み、本を使って調べてから、報告書にまとめるまでの流れをつかみ、学習計画を立てる。
- <評価>
- ① 学習や生活の中で感じた盛岡に関する不思議を紹介し、それを調べ「誰に」「どんな方法で」伝えたいか、自分の考えをもち話し合いに臨んでいる。《ワークシート・話し合い》
 - ② 文献調査から報告書の記述までの活動の流れを理解し、これからの活動に意欲や自分なりの目標をもっている。《ワークシート・発言》

「不思議な記号を調べて、報告する文章を書こう」で学習した報告する文章を書くための学習の進め方についての知識を生かして、学習計画を立てる。

第2次
文献調査をし、分かったことと自分の考えを整理しながら、引用や要約を用いて報告書を書く。
(12時間)

- ③ 中心学習材や実際の本を基に、調べるための本や資料の種類、および検索の仕方を理解する。
 - ④⑤⑥調べたいことを決め、事典や図鑑、科学読み物などの本や資料から情報を収集する。
 - ⑦ 既習の報告文と報告書を比べて読み、報告書の構成と横書きの文章の書き方を確かめる。
 - ⑧ 自分の報告書の構成を考え、調べたこと・考えたこと・感想を整理し構成表を作る。
 - ⑨⑩⑪構成表に沿って、まとめりごとに報告書の下書きをする。(本時⑩「分かったこと」の記述)
 - ⑫ 報告書の下書きをグループで読み合い、間違いを正したり、よりよい書き方に直したりする。
 - ⑬⑭推敲を生かして報告書を清書する。
- <評価>
- ③ 事典や図鑑など、調べるときに役立つ本について知り、目次や索引から言葉を探す方法を理解して調べている。《カード・ワークシート・活動の様子》
 - ④⑤⑥調べたいことを事典や図鑑、科学読み物などから探して読み、引用や要約をしながら、報告書を書くための情報を集めている。《活動の様子・取材カード》
 - ⑦ 「記号」や「町の不思議」について書いた報告文とモデルとなる報告書を比べ、共通点から報告書の様式を、相違点から横書きの記述の仕方を捉えている。《ワークシート・発言》
 - ⑧ 報告書の構成に沿って、「分かったこと」の順序に気を付けながら、集めた情報を整理している。《構成表》
 - ⑨⑩⑪構成表を基に、文末表現・横書きの仕方・引用の仕方に気を付けながら、各まとめりの下書きをしている。《ワークシート(下書き)》
 - ⑫ 下書きを読み返し、加除修正したり、引用の仕方や出典が正しく書かれているか確かめたりしている。《活動の様子・ワークシート(下書き)》
 - ⑬⑭推敲を生かして、丁寧に清書している。《清書》

「不思議な記号を調べて、報告する文章を書こう」で学習した報告文の構成についての知識と技能を生かして、報告書の構成表を作る。

報告・説明の文章に使われる言葉や表現についての知識と技能を生かして、報告書の下書きをする。

第3次
「盛岡ふしぎほうこく書」出版披露会を行う。(2時間)

- ⑮ 友達と作品を読み合い、感想や意見を交流する。
 - ⑯ 単元を振り返り、身に付いた力やその力を生かしてできる活動について話し合う。製本・展示の準備。
- <評価>
- ⑮ 友達の書いた報告書のよさを見付け、感想や意見を伝え合っている。《カード・発言》
 - ⑯ 身に付いた力や高まった力に付けて振り返るとともに、これからの活用場面について話し合う。《自己評価シート・発言》

【国語科活用場面】
○疑問に思ったことをアンケートで調査し、報告する文章を書く。(4年「読書生活について考えよう」)

【他教科等・日常活用場面】
○「ふるさと自然探検隊」で調べたことを報告する文章に書く。(総合的な学習)

○冬休みの自由研究(理科・社会科等)

歴史文化館に展示

5 本時の指導

(1) ねらい

盛岡の不思議について、本や資料から調べたことを引用したり自分の言葉でまとめたりして、報告書の「分かったこと」を書くことができる。

(2) 基礎的・基本的な知識・技能を活用する言語活動

「不思議な記号を調べて、報告する文章を書こう」の学習では、実際に自分で見たり聞いたりして集めた情報を事柄ごとの段落に分けて、事実と感想を表す文末表現に気を付けながら、報告する文章に書き表す力を身に付けてきた。また、本単元第7時には、横書きの文章の書き方として、読点としてコンマ(,)を用いることや、和語・漢語の一部分以外は、算用数字を用いることを学習した。本時では、これらの知識・技能を生かし、本や資料から集めた情報を引用しながら、事実と感想・意見の文末表現を用いて「分かったこと」を書きまとめていく。

(3) 展開

学習活動	学習内容	指導の手立てと評価
1 本時の学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 本で調べたことを生かして、ほうこく書の「分かったこと」を書こう。 </div>		○「友達や歴史文化館を訪れる方々に、盛岡の不思議について、分かりやすく伝える。」という相手意識・目的意識を確認できるようにする。
2 本時の学習の見通しをもつ。	○調べたことの生かし方 ①そのまま使う。(引用) ②自分の言葉でまとめる。	
3 学習課題を解決する。 (1) 取材カードのモデルと報告書のモデルを用い、引用の仕方と自分の言葉でまとめる方法を学ぶ。 (2) これまでの報告する文章の学習で身に付けた力の中で、報告書の「分かったこと」で生かせる技を確かめる。 (3) 報告書の「分かったこと」の下書きをする。 ・記述 ↓ ・グループ交流 (相談・アドバイス) ↓ ・記述	○引用のルール ①何のために引用するのか目的をはっきりと！ ②もとの文を正確に引用する。 ③引用した文章の前後に、自分の考えを書く。 ④どの本から引用したか分かるように書く。 ○引用の方法 ～によると「……」 ・ということである。 ・と書かれていた。 ・だそうだ。 ・であるらしい。 ○横書きの文章の書き方 (既習) ○難しい言葉を辞書で調べ易しく直すこと (既習) ○分かったこと(事実)と考えたことを表す文末表現 (既習)	○本から調べた内容を全て書き写すことの無いように、取材カードのモデルと報告書のモデルを用い、自分の「問い」と「考え」に合うように取捨選択していることをとらえさせる。 ○そのまま引用する場合と、自分の言葉でまとめる(要約)場合の表現方法を確かめるために、取材カードと報告書のモデルに対応させながら印を付ける。 ○報告する文章に用いられる既習の表現を活用したり、更に増やしたりできるように、「不思議な記号…」の際に児童と共に作成した「報告・説明の表現*チェックカード」を用いる。 ○記述に移る前に、前時に書いた「はじめに」の下書きを読み返し、自分の「問い」を確かめ、「取材カード」の「答え」にふさわしい箇所を蛍光ペンでマークする活動を入れる。 ○記述の途中で、グループ交流の時間を持ち、つまづきを解決したり、実物投影機を用いて、よい表現を広めたりする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> (評価) 構成表を基に、文末表現・横書きの文章の書き方・引用の仕方に気を付けて、報告書の「分かったこと」の文章を書いている。 【ワークシート(下書き)】 </div>
4 学習をまとめ、振り返る。 (1) 自己評価をし、学習感想を書く。 (2) 振り返りを交流する。	○自己評価の観点 ・引用のルールを守れたか。 ・2種類以上の本から、分かったことを書けたか。 ・横書きの仕方を守れたか。	○課題の達成度については、三つの評価の観点から☆の数で表し、学習感想については、「自分の高まり」「光る友達」「感想」から選んで書く。 ○次時は、「問い」に対する「答え」や、自分の考えをまとめて、報告書の「終わりに」を書く。
5 次時の学習内容を確認する。		

